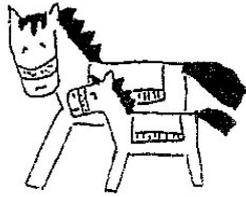


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリ



令和8年 3月 No. 376

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			3月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
3月	6日 13日 27日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	花の3月、4月、お出かけできるような体を ほぐしておきましょう。
3月	10日	火	自然の中の遊び体験 13:30～14:30	木の幹のデコボコの様子から木の表情を想像し 目玉シールを貼って福笑いをしましょう。
3月	14日	土	子育てに役立つ小物づくり 14:00～15:00	新聞紙を丸めて切って、たたんで切って、呪文を かけると色んなものが現れるシアターづくりをします。
3月	17日 24日	火	体験保育 13:30～14:30	4月から入園の方も保育園で体験 してみませんか？
3月	20日	金	香川みすゞさんの会 (花の遠足) 10:00～14:00	春の四国村へ行きましょう。 お弁当用意のため3/15までに申込み要。
・月～金の12:00～17:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、土・日曜・祭日は休み)			育児相談(月～金) 12:00～17:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、 入園・見学についての相談もどうぞ。	



金子みすゞ 童話全集⑤
「さみしい王女・上」より

み凍と
んなっ
なたい
なこの
こその
ころ音
になは
りまき
したと
きに
た、

と馬七
お櫃つ
いのの
お上の
鐘の星
を旅した
きびと
まは、
た。

ひひひ
ととと
つつつ
おおお
花鐘を
がひひ
らびら
きくま
ます。

鐘な垣
がかも
かむの
か古す
っ樹ば
てのず
いる大
枝人も
に、い
ばかり。

林誰七
檜もつ
ば知の
たら星
けない
がいの
あ雪の
り国した
まに、
た。

林檎畑



金子みすゞ

小さきものをあたたかく見つめるみすゞの世界とその人生を、わかりやすく説明します。(日本語を味わう名詩入門2 矢崎節夫・萩原昌好編 あすなろ書房)

大漁



朝焼小焼だ

大漁だ。

大羽鱈の

大漁だ。

浜はまつりの

ようだけど

海のなかでは

何万の

鱈のとむらい

するだろう。

『大漁』“あなたと私”Understand

金子みすゞさんの代表作です。

浜の喜びから一転して、海の中のかなしみに対峙させられることで、大漁とはこういうことだったのかと、あらためて深く心にとどきます。

『大漁』という詩に出会うことによって、どれだけ多くの人が、自分中心、人間優先のまなざしをひっくり返されたことでしょうか。私自身も、その一人です。

この詩に出会う前の私は、“私と鱈”でした。生きるためには、鱈は食べられてあたりまえと考えていたのです。しかし、『大漁』を読んで、“私と鱈”が“鱈と私”に変わったのです。自分一人で生きていたのではなく、他のいのちによって生かされていたことに気づいたのです。“私と鱈”は、“私とあなた”という自分中心、人間優先のまなざしです。“私とあなた”だと、私の位置が上にあがって、上から下へ、「どうして理解してくれないの」と、ことばをぶつけやすくなります。私があなただけを理解しようとしなくていいのに、あなたが私を理解してくれるわけがないのにです。

おたがいに相手の存在を認め、尊重するためには、相手より上にあがったまなざしを、相手のところまで下にさげないと成りたちません。だから、英語で理解するというのは、〔Understand (下に立つ)〕と書くのですね。

理解するとは、上にあがったまなざしを、下にさげること、〔Understand〕、いいことばですね。上にあがった自分中心のまなざしを下にさげたとき、人は、“あなたと私”という、うれしいまなざしに出合えるのです。

“あなたと私”というまなざしの人だから、みすゞさんは鱈のかなしみに佇めたのです。



『昼の月』“2つで1つ”相手側から考える

『大漁』の中で、みすゞさんは、浜の喜びと海の中の
かなしみ、目に見えることと見えないこと、生きること
と死ぬことすべて“2つで1つ”で歌っています。

“2つで1つ”というまなざしで見ると初めて、大切なこ
と、真理が見えてくるのです。

みなさんは、昼の月を見たとき、反対側の月のない夜
を思いえがいたことはありますか。残念ながら、『昼の
月』を読むまで、私は一度も考えたことがありません
でした。みすゞさんはすごいなと思います。

10年ほど前に、〈ネパールみすゞ基金〉をつくり、
みすゞさんの詩を好きな人たちの寄付を集めて、ネパー
ルに2校の小学校を建設しました。ここの小学生にえんぴつを送ろうと、山
口県の小学校でえんぴつを集めてくれたことがあります。このとき1人の少
女が2本のえんぴつをきれいにけずって、もってきてくれたのです。

「あれっ、使っていないえんぴつを持ってきてと、先生いったよね。どうした
のかな」先生の問いに、少女はキラキラと答えました。

「ネパールの子は、えんぴつを持っていないのだから、えんぴつけずりも持
っていないと思って、けずってきたの」

少女のことばをきいて、先生も私も胸がいっぱいになりました。えんぴつ
を持っていないということは、えんぴつけずりも持っていないということだ
ったのですね。

このことに気づいた少女は、相手側から考えることができたのです。みすゞ
さんと同じです。何かをするとき、みすゞさんの『昼の月』のように、この少
女のように、相手側へ思いをはせる人でありたいと思います。

昼の月

しゃぼん玉みたいな
お月さま、
風吹きゃ、消えそな
お月さま。
いまごろ
どっかのお国では、
砂漠をわたる
旅びとが、
暗い、暗いと
いってましょ。
白いおひるの
お月さま、
なぜなぜ
行ってあげないの



みえない星



空のおくには何がある。

空のおくには星がある。

星のおくには何がある。

星のおくにも星がある。

眼には見えない星がある。

みえない星はなんの星。

お供の多い王様の、

ひとりの好きなたましいと、

みんなに見られた踊り子の、

かくれていたいたましいと。

『みえない星』“目に見える部分と見えない部分”

〔空のおくには何がある。／空のおくには星がある。／星のおくには何がある。〕

と、7・5・7・5のリズムでスキップをふむように、奥へ、奥へと入って行って、ぱあっと視界が広がります。その広がった視界の先にあるのは、私たちが日常忘れていた大事なことです。

〔お供の多い王様の、／ひとりの好きなたましいと、／みんなに見られた踊り子の、／かくれていたいたましいと。〕

そうです。私たちは自分側からだけ見て、王様はいつもたくさんの家来にかこまれていいなあと、踊り子はみんなに見てもらえて、拍手をもらっていいなと、一方的に考えているのです。でもここでもみすじさんはちがいます。目に見える部分ではなく、目に見えない王様や踊り子の気持ちに、そっと佇んでいるのです。みすじさんはすごいな、やさしいなと深く思います。

“見える部分と見えない部分を持っている”のが人間です。

しかし、私たちは見える部分だけを見て、その人を愛したり、尊敬したりしがちです。そして、あるとき突然、見えなかった部分を見たとき、「あんな人だとは思わなかった」と失望したり、憤慨したりするのです。本当は、人を愛したり、尊敬するということは、その人の“目に見えない部分まで受け入れる”ということなの입니다。

目に見える部分と見えない部分を、長所と短所といいかえることもできます。長所と短所は同じ量あるのです。短所のほうに目がいきがちですが、『みえない星』を読むと、長所の方にも目を向けたくなりますね。